

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1 - 1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
毎月 1日発行
平成 27 年 10 月号

千葉県における「食育」の取組について

～キャッチフレーズは「ちばの恵みで まんてん笑顔」～

千葉県農林水産部安全農業推進課 食の安心推進室

県民一人ひとりが主役となり、おいしい「ちばの恵み」をバランス良く食べて、健康で笑顔あふれる暮らしを実現することを目指し、「ちば食育ボランティア」、「ちば食育サポート企業」をはじめ農林漁業関係者、教育関係者等と連携・協力し、地域の特性を生かした食育活動を推進しています。

1 第 2 次千葉県食育推進計画の施策展開

県では、平成 25 年 1 月に第 2 次千葉県食育推進計画を策定し、『ちばの恵み』を取り入れたバランスの良い食生活の実践による生涯健康で心豊かな人づくりを基本目標に、様々な施策を展開しています。

特に、農業分野では「地産地消による食育の推進」を重点項目とし、直売所や農業体験農園、学校・保育所等における農林漁業者や関係団体等による食育活動を促進し、食と農林水産業の結びつきについて理解を深める取組を進めています。

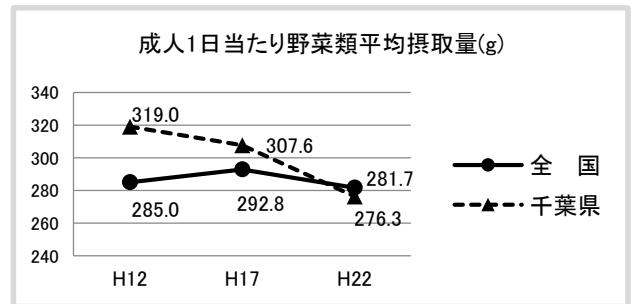
また、県では「ちば食育ボランティア」「ちば食育サポート企業」を募集し、農林漁業者や農業協同組合等多くの方々に登録いただき、地域における食育活動の原動力となっただいています。

2 「ゲー・パー食生活」の普及・啓発

バランスのよい食生活として、「何をどれだけ食べたら良いか」をわかりやすく伝えるため、「ゲー・パー食生活ガイドブック」を作成しました。1 食当たりのおかずの量は、肉や魚等の主菜は片手を握ったゲーの大きさと厚さ 2 センチ、野菜等の副菜は片手を広げたパーに山盛りを目安にするのがポイントです。

「県民健康・栄養調査」によると、成人 1 日当たりの野菜類平均摂取量は減少しており、平成 22 年の調査で千葉県は 276.3g で、国が目標とする 1 日あたり 350g には約 74g 不足しています。

千葉県は野菜の産出額第 3 位の園芸県です。県民のみなさんに県産の旬の野菜をもっと食べてもらえるよう、「ゲー・パー食生活」や「カンタン！野菜たっぷりレシピ」等により啓発しています。



県民健康・栄養調査結果(千葉県)、国民健康・栄養調査結果(厚生労働省)

3 地産地消による食育の推進

11 月はちばの旬の食材が豊富に出回る時期であることから「ちばを食べよう！ちばの食育月間」と定め、全県的な食育推進運動を展開しており、学校給食では、「千産千消デー」を設けて学校給食に地場産物を使用し、地域でとれる食材や食文化への理解を深めるとともに、感謝の心を育む取組を行っています。

さらに、他の時期にも、栄養士養成課程の学生を対象に、農林漁業体験や生産者との交流を通じて、県の農林水産業について理解を深める取組を行っています。

今後もこのような取組を通して「食」と「農林水産業」への理解を深めてまいります。

ゲー・パーはおかずの おおよそのめやすです

主菜は「ゲー」

主菜の1食分の量は
ゲーの大きさ 厚さ 2cm をめやすに！

ここがゲーの大きさ

主菜になる食品は
肉・魚・たまご・大豆

副菜は「パー」

副菜の1食分の量は
パーにたっぷりめやすに！

片手の上に 片手の上になるくらい

副菜になる食品は
野菜・海藻・きのこ・こんにやく

出典:「ゲー・パー食生活ガイドブック(概要版)」



JA山武郡市管内において葉玉ねぎのほ場を視察

頑張る産地



若手生産者のやる気が、わけねぎ産地を変える！

千葉農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 染谷 淳

J A 千葉みらい土気地区出荷組合連合会わけねぎ部会で、今年 3 月に若手生産者が中心となった「わけねぎ研究会」が発足しました。土気地区にわけねぎ栽培が導入されて 22 年。産地のさらなる発展を目指し、研究会を核として栽培技術向上・良品生産に取り組む体制が出来ました。

1 わけねぎ生産の概要

わけねぎ栽培が千葉市土気地区に導入されたのは平成 5 年頃です。軽量で周年栽培が可能なことから、しょうが等の土物野菜に代わる品目として栽培がスタートしました。



現在、J A 千葉みらい土気地区出荷組合連合会わけねぎ部会では、生産者数 13 戸で、年間約 90t を生産しています。

2 省力化と安定出荷が課題

わけねぎ栽培では定植や出荷調製等の多くの作業が手作業で、規模拡大のボトルネックとなっています。また、地域の主力品目である秋冬人参等と作業が競合する冬場に出荷量は減少します。夏場の出荷量が多いものの、アザミウマの多発や、品質低下により生産が不安定となっていました。

このため、わけねぎ部会では、農作業の負担軽減や、省力機械の導入、病虫害の一斉防除、品質や棚持ち性向上のための実証試験等、様々な生産技術改善に取り組んできました。

3 若手中心の研究会が活動をスタート

平成 26 年に若手生産者（40 歳以下）8 名のうちの 2 名が副部長に就任し、ベテランと若手が協力して部会運営を行う体制が出来ました。

さらに今年 3 月には、若手生産者が中心となり、実証試験や視察等の研究活動を通じて課題解決に取り組む「わけねぎ研究会」が発足しました。

本年度は、夏場の棚持ち性と収量性向上を目的とした栽培試験に取り組んでおり、研究会発足が、若手生産者のやる気だけでなく課題解決のスピードアップにもつながっています。



先進地視察研修会（高知県）



半自動定植機の実演会

4 新たなステージを目指して！

「親世代が、土気にわけねぎを導入し産地をつくってくれた。自分たち世代の役割は、この産地をさらに発展させること。」そう語ってくれたのは、わけねぎ研究会長の鈴木宗一郎さんです。

若手生産者のやる気が、産地に新たな風を吹き込もうとしています。

頑張る産地



果樹経営支援対策事業を活用した 三芳柑橘組合の取組について

安房農業事務所 改良普及課
普及指導員 影山 浩司

三芳柑橘組合では、今後の産地の維持・発展を目的として平成 25 年度に産地協議会を設立し産地計画を作成しました。そして、平成 26 年度には、果樹経営支援対策事業を活用し、改植を実施しました。今後も継続して優良品種の導入や園地整備を推進していき魅力ある産地を目指しています。

1 三芳柑橘産地協議会設立

三芳地域は南房総市の中心部に位置し、古くから柑橘栽培が盛んな地域です。三芳柑橘組合は、組合員 28 名、栽培面積約 16ha で、販売は地域の直売所や庭先、みかん狩り等地元での直接販売が中心となっています。産地では、老木化や生産者の高齢化が進み、生産者や栽培面積の減少が問題となっており、若手生産者から今後の産地について話し合いたいという声が上がりました。

そこで、平成 25 年 8 月に関係機関と生産者の代表者からなる産地協議会を設立し、今後の産地振興について話し合いました。

2 アンケート調査及び産地計画策定

まず協議会で、産地の現状把握をするため、三芳柑橘組合員全員を対象としたアンケート調査を実施しました。その結果、産地全体の品種構成や、後継者不足、老木化、放任園の増加の可能性などの現状及び販売は庭先やみかん狩り、地元直売所など地元消費が中心であることが確認できました。

この結果を基に、今後も安房地域に来て購入してくれる消費者に愛されるような産地になれるように、今後栽培を推進する品種及び面積、販売戦略等の振興方針をまとめ、「三芳柑橘産地構造改革計画」を作成し、千葉県承認を受けました。

3 果樹経営支援対策事業への取組

産地計画の承認を受け、果樹経営支援対策事業の活用が可能となり検討会を開催しました。本事業で取り組める主な内容は、優良品目・品種等への改植や、園内道の整備と傾斜の緩和、かん水施設の設置などであることを説明し希望者を募りました。その結果、2 名の担い手が改植の事業希望を提出し、実際に 1 名が本事業を活用し老木となった既存品種から優良品種への改植を実施しました。



改植実施後のほ場の様子

4 今後の展望

今後も定期的に話し合いを進め、計画的に優良品種へ改植を進めるとともに、みかん狩り園に適した園地整備を推進し、魅力ある柑橘産地を維持できるように支援をしていきたいと思っています。

頑張る産地



南房総の元気な花き生産者「南房総市 加藤英世 氏」

安房農業事務所 改良普及課
普及指導員 林 聖麗

南房総市は全国有数の洋らん切花の生産量を誇っており、若手からベテランまで幅広い年代の生産者達が切磋琢磨し最高品質の切花生産を行っています。その中でも人望が厚く頼りになる兄貴分、加藤英世さんをご紹介します。

1 (有)加藤洋ラン園の歴史

加藤英世さんの父、義明さんが昭和 46 年に 4a の温室でシンビジウムの生産を開始したことから「加藤洋ラン園」が始まりました。平成 4 年には有限会社化し、平成 5 年に英世さんが 2 代目として就農、平成 25 年に(有)加藤洋ラン園の代表取締役役に就任しました。現在は家族 4 名、雇用 20 名で合計 134a (カトレア 68a、コチョウラン 7a、ホワイトレースフラワー 59a) を栽培しています。

2 経営の特長

基幹品目であるカトレアは、契約販売の割合を高めることで経営の安定化を図っています。そのため、電照・シェードによる開花調節技術を駆使し計画生産を行い、周年で安定供給できる生産体制をとっています。さらに、消費者のニーズに合った品種を選び、花持ちや花形等の品質にこだわった栽培を行っています。病害やウイルス対策として、1 本採花する度にハサミをバーナーで熱殺菌するなど管理を徹底しています。

また、自家育種によりカトレアのオリジナル品種の作出を行い、育種による品質改善をすすめています。顧客である花屋のロスをなくし、仕事のサポートができることを常に考え、特に温度変化に強い花を追求しています。ただし、洋らんの育種は播種から開花するまで 5 年、生産ベースに乗るまで 10 年以上かかるなどその道のりは容易ではありません。



加藤さんが育成したカトレア



世界らん展日本大賞 2014 の生け込みと加藤さん

3 組織活動への参加

様々な組織で要職を務め、多忙な日々を送られています。平成 25 年度から千葉県花き園芸組合連合会の副会長となり、千葉県産の高品質な花きを全国に PR しています。千葉県洋らん生産者組合では顧問として後輩の指導にあたり、世界らん展日本大賞 2015 では組合で制作した大型ディスプレイが最優秀賞に選出されました。また、農業士活動では安房地区の会長理事としてリーダーシップを発揮して、地域や品目を超え多くの生産者と交流を深めています。

4 今後に向けて

地域の若手生産者の手本となり、花き栽培を通して農業で夢を与えられるよう今後も頑張りたいと語っておられました。



レタスビッグベイン病に負けない冬どりレタス優良品種の選定

(第 65 回全日本野菜品種審査会)

農林総合研究センター 暖地園芸研究所
野菜・花き研究室 研究員 宮本 直子

レタスビッグベイン病に抵抗性を持つ 10 月上旬播種の冬どり栽培に適した優良品種として、「ワンダフル (KAY-006)」（カネコ種苗(株)）、「M2-047」((株)サカタのタネ)、「オーディブル (SM9-040)」（同)、「UC-025」(横浜植木(株))、「YLL307」(住化農業資材(株))を選定しました。

1 はじめに

館山市南部の神戸地区では、温暖な気候を生かして冬どりレタスが生産されています。しかし、2001 年にレタスビッグベイン病の発生が確認され、その後、2006 年には 12ha まで被害が拡大しました。レタスビッグベイン病は、葉脈の周辺の葉肉が白化して生育が悪くなる、薬剤では防除しきれない土壌伝染性の病気です。産地では抵抗性品種を導入する等の対策を講じてきましたが、作付けされている抵抗性品種の多くは、結球の形状が腰高であるなど品質に問題がありました。また、冬どりレタスでは、特に 1 月から 2 月の厳寒期にあっても、球の肥大の良い品種が求められます。そこで、レタスビッグベイン病の発病圃場において、第 65 回全日本野菜品種審査会を開催し、冬どり栽培に適した品種の選定を行いました。

2 審査結果

出品された 15 品種について 2014 年 2 月 7 日に審査を行い、「ワンダフル」(カネコ種苗(株))、「M2-047」((株)サカタのタネ)、「オーディブル」((株)サカタのタネ)、「UC-025」(横浜植木(株))、「YLL307」(住化農業資材(株))の 5 品種が入賞しました。「M2-047」、「オーディブル」、「ワンダフル」、「UC-025」は、形状がやや扁平で、外観形質に優れていました。また、「YLL307」、「オーディブル」、「KAY-006」、「UC-025」は、球径が大きく結球重が重く、低温期の肥大性が優れていました。

入賞した 5 品種のレタスビッグベイン病発病株率は 55~67%であり、中程度の抵抗性を示しました。

表 第65回全日本野菜品種審査会入賞品種

順位	品 種	種苗会社	得点	収穫物の大きさ			発病株率 (%)
				球径 (cm)	球高 (cm)	結球重 (g/個)	
1	ワンダフル(KAY-006)	カネコ種苗(株)	331.57	13.8	12.9	638	64
2	M2-047	(株)サカタのタネ	328.93	12.5	12.1	498	55
3	オーディブル(SM9-040)	(株)サカタのタネ	328.54	13.9	13.6	554	61
4	UC-025	横浜植木(株)	318.46	13.1	12.9	590	56
5	YLL307	住化農業資材(株)	317.29	13.0	13.4	610	67

注 1) 配点は、立毛が100点、収穫物が300点の合計400点である

2) 2013年10月2日播種、11月5日定植、2014年2月7日審査

10a当たり施肥分量は窒素36kg、リン酸31kg、加里21kg (ベッド部のみ施用)
株間35cm、条間28cmの4条千鳥植え、12月8日にトンネル被覆

3) 発病株率は、1月22日に全株(各区60株)を調査した

「食のちばの逸品を発掘 2016」出品者募集!

千葉県とちばの「食」産業連絡協議会では、埋もれたちばの逸品を発掘し、それに光を当ることで地域の農林水産業及び食品産業の活性化に役立てようと、毎年コンテストを開催しています。

今年も 10 月 5 日から募集を開始し (11 月 5 日午後 4 時 30 分必着〆切) 一般審査、専門家審査を経て金、銀、銅の各賞を決定し表彰します。

今年は「一般部門 (全国的な販売を目指した商品部門)」「直売所部門 (地域での販売を主とした商品部門)」の 2 部門で実施します。

「良い物が出来たので評価が知りたい」や「新しい商品を開発したので」でも OK です。多くの皆様の御応募をお待ちしております。

県政へ参加しよう

 県政へのご意見	 パブリックコメント
 アンケート・世論調査	 各種公募・募集情報

※ 詳細は千葉県ホームページを御覧ください。

【ちばの逸品 2016】で検索!

・お問い合わせは 県流通販売課販売・輸出促進室
電話 043-223-3085 まで

各種公募・応募情報をクリック!

千葉県植木まつり (第 43 回千葉県植木共進会)

世界に誇れる本県植木の品評会を下記のとおり開催します。卓越した樹芸技術で仕立てられた植木を御覧ください。

記

主催：千葉県、千葉県植木生産組合連合会、
(公社) 千葉県園芸協会

日時：平成 27 年 10 月 24 日 (土) ~ 25 日 (日)

会場：(株) 八日市場植木センター (匝瑳市平木 3 9 1 6)

内容：・植木の品評会・出展物の即売会
・苗木プレゼント (各日、先着)

出品予定部門：造形の部、規格物・鉢物の部、
特殊樹の部、グランドカバープランツの部

問い合わせ先：県生産振興課園芸振興室：電話 043-223-2871



写真：第 42 回千葉県植木共進会

第 12 回国際フラワー EXPO (IFEX2015) の開催について

アジア最大級の花及び植木の展示商談会である国際フラワー EXPO が幕張メッセで開催されます。

県では、県内花植木生産者が参加する千葉県ブースや輸出促進ゾーンにおいて、国内外の実需者に対し県産花植木の販売促進活動を実施します。

来場の際は千葉県ブースへ是非お立ち寄りください。

会期：平成 27 年 10 月 14 日 (水) ~ 16 日 (金)

10:00~18:00 (最終日は 17:00 まで)

会場：幕張メッセ

問い合わせ先：県生産振興課園芸振興室

電話：043-223-2871



写真 第 11 回国際フラワー EXPO (IFEX2014)